

第2回：聖母マリアは文盲でなかったか：称え救う知

1. ペトラルカ『恋愛詩集』

64番

もしも君が眼を伏せ首を横にふり
当惑した仕草をして、僕の誠実な高貴な祈りにも
顔を背けて、さっさと逃げようと
いう気持ちでいるのなら、

ペトラルカの常套句：
女性は愛を拒む

あるいはもしも＜愛の神＞が僕の胸に
何本もの早春の月桂樹の枝を突き刺しながらも
何とか退去してくれるなら、
君から受ける軽侮はもっともなこととして受け入れられよう。
秀麗な一本木は、乾いた土地には
ふさわしくないだろうから、そんな地からはさっさと
退出するのが自然の理というもの。

ペトラルカの常套句：
自分ではなく＜愛の神＞が恋心を誘発している

ところが自分でどこか他に移るのが許されないのが
君の運命。そういう運なのだから、せめて憎しみの地に
いつまでも踏み留まらないように注意して欲しい。

ペトラルカの常套句：
愛を拒むと損をする

240番

ああ甘い苦しみよ、苦い喜びよ、僕が＜愛の神＞に
祈ってきたことは、もしも神を固く信じるあまり
僕が正しい道から外れることがあっても、
君の前で僕を許してくださいということだ。

ペトラルカの常套句：
精神的愛が肉体的愛に越境することへの赦免

意中の君よ、心に抑制を働かせ善いものにする理性が
欲望に打ち負かさされはしないなどと、言い張れませぬし
そういうつもりもありません。だから欲望に引っ張られ
理性を断ち切らなくてはならない場に至ることもあるのです。

意中の人よ、恵み深い星がいつも降り注ぐように

女性称賛のペトラルカの常套句：
神々しい女性の徳

その澄み切った知性と優れた美徳によって
空を輝かせる人よ、

僕を蔑むことはもうやめて、ほだされて、口に出して欲しい
「この男はどうなっているの。やつれているは、私のこの顔のせい。
この男、どうして焦がれ、私、どうしてこんなに綺麗なの」。

2. プラトン主義：魂の自力上昇

(1) 靈魂の神性な起源と特質

(2) 神性を感覚の束縛から解放する

(3) 本来の神の故郷への上昇

- この世の様々な美から出発し、あの美のために絶えず上昇を続けること、あたかも階段を一段一段昇るように、一つの美しい肉体から二つの美しい肉体へ、二つの美しい肉体からすべての美しい肉体へ……そうしてついに美なるものそのものを認識することなのです。

プラトン『饗宴“愛”をめぐる七つの話』 211B 多田広子訳、多田建次編、鳥影社、1999年 [一部変更]

3. カトリック神学：人間は死なない

1. 神へと誘発する歴史的事実

2. 創造主と被造物との区別

(1) 天地の創造主としての神：「天地創造」

(2) 原罪：「墮罪」

(3) 受肉：「受胎告知」

(4) 死と身体の復活：「磔刑」と「復活」

4. 予表論：聖書の時間的読解

旧約の記述（影）が、新約の出来事（真理）として成就

5. 類推：聖書の空間的読解

キリストの受難 Passion

肉体上の苦しみ

聖母の哀れみ compassion

精神的な苦しみ



聖母の執り成し

聖なる神の御母よ、私たちは
あなたの御保護の下に逃れます。
私たちの謝罪から
どうか眼を背けず、
私たちの苦難からも
眼を背けず、
いつも私たちをあらゆる苦しみから
解放して下さい。
栄光に満ち祝福された乙女、
私たちの女主人、私たちの仲介者、
私たちの弁護者よ。
私たちの取りなし手として、
あなたの子に私たちを薦めて下さい、
私たちの取りなし手として、
あなたの子に私たちを見せて下さい。

